

統合失調症

統合失調症は、こころや考えなどがまとまりを欠いた状態になる病気です。そのため行動や気分、人間関係などに様々な影響が出ます。100人に1人くらいがかかるといわれていて、それほど珍しい病気ではありません。早めに治療するほど症状が重くなりにくいといわれているので、早期発見と早期治療が大切です。

○ 統合失調症とは

統合失調症には、健康なときにはなかった状態が現れる「陽性症状」と、意欲や感情表現が減るなど、あったものが失われる「陰性症状」があります。

主な陽性症状

● 幻覚

統合失調症の症状の特徴のひとつに、実際にはないものを知覚する幻覚があります。なかでもほかの人には聞こえない声が聞こえる「幻聴」が、現れやすい症状です。

● 妄想

妄想とは、ほかの人にとってはあり得ないと思えることを確信してしまうことです。周りが違うと説得しても受け入れられません。たとえば、何でも自分に関係があると思込む「関係妄想」、周囲の人が自分を陥れようとしていると思込む「被害妄想」、見張られていると思込む「注察妄想」など、様々なものがあります。

● 考えの混乱

考えをまとめることが困難になるため、支離滅裂で、まったく脈絡のないことを言ったり考えたりするようになりま。話が途切れたり、とんで脱線したりします。

主な陰性症状

- 意欲がなくなり無気力になり、身の回りのことにかまわなくなる。
- 感情が表に出にくくなり、いつも無表情で、喜怒哀楽がなくなる。
- 友達や家族など人と関わることを避けて、閉じこもる。

○ 治療法について

統合失調症の治療は、薬物療法が基本です。抗精神病薬を中心に、睡眠薬、抗不安薬などが処方されます。症状が軽くなってきたからといって、勝手に服薬を中断するのは厳禁です。再発の危険が高くなりますから、薬の調節については、お医者さんとよく相談しましょう。

また病院のデイケアなどでは、運動療法、作業療法、社会生活技能訓練（SST）などが行われ、社会生活や対人スキルを練習したり、低下した意欲を高めたりするためのリハビリテーションも行われています。

統合失調症は回復可能な病気です。長い経過で見ても過半数は回復し、重度の障害が残る場合は20%程度といわれています。そうはいても、実際の苦痛を考えれば、決して楽観的に捉えられる病気ではありませんが、一方で統合失調症の治療技術は日々進歩しています。なるべく早いうちから、しっかりとした治療を受けていくことは大変重要です。

○ サポートをするとき

多くは10代後半から20代にかけて発症します。本人に病識（病気であることへの認識）が少ないこともあり、ご家族や周囲の方が先に気づくケースが多いでしょう。

家族が病状に対して批判的な発言をしたり、逆に心配しすぎたりすると、かえって回復が遅れる場合があります。ご家族や周囲の方にとって心配になるのは当然ですが、できるだけ平静さを保ちながら、本人のつらさをじっくりと受け止めていくことが大切です。